

アミティホールについてお聞き致します。

昨年12月議会で取り上げさせて頂きましたが、前回のご答弁は以下の要旨であります。

先ず、田村政策局長からは、「近隣他都市では同時期に建設された市民ホールの建て替え更新が次々と進められている中、5次総の期間中を現状維持した場合、当ホールは築60年を過ぎる事になり、本市の文化芸術活動の拠点である施設の運営に支障をきたす恐れがある。公共施設マネジメントの観点からも、本庁舎周辺整備を効率的に進めると共に、施設の再配置による新たなまちづくりを推進するには、アミティホールの更新が起点になる。」更には「本庁舎周辺整備構想を取りまとめていく中で、議会からの意見などを頂戴しながら、早期に具体化したい。」

続いて太田産業文化局長からは、「現在当ホールは、老朽化が進み設備面での脆弱性を抱えているが、これまでの市民文化の向上に果たしてきた役割を踏まえると、市民にとって文化芸術を振興する拠点としてなくてはならない施設である。」「来年度から、各種アンケートの他、各芸術分野の専門家や市民グループとのヒアリングを行い、新アミティホールに係る基本構想策定に着手したい。また、専門家の意見を交えて、他にはない西宮ならではのコンセプトやテーマを盛り込んでいく。」と、本市の文化芸術の歴史を鑑みた、この上ないご答弁を頂いたのであります。

扱て、アミティホールは、本市で音楽に携わる方々にとっては聖地であるという事です。全国の球児達が、憧れの甲子園球場を聖地と呼ぶのと全く同様であると云います。

今や西宮市立中学校合同音楽会の開催は52回を数え、小学校も64回という歴史がございます。昨今、音楽熱は益々高まり、市内20ある中学校の吹奏楽・合奏・太鼓等の部活動総部員数は1400人を超え、みやっこは、誰もが一度はアミティの舞台に立ち、スポットライトを浴びて音楽に携わる喜びを味わうのだとお聞きします。日本一になった今津中学校も例外ではありません。西宮で育ち、アミティで脚光を浴び、公立高校では県下唯一の音楽科のある県立西宮高校等を経て、音楽大学や専科として音楽部のある大学等で音楽に関する知識や技術を研鑽し、国内はもとより世界を股に懸けて活躍する先輩諸氏が、今その夢を追い求め精進する本市の生徒児童の為に態々このアミティに帰り、音楽を奏するのであります。まさに感動であり、ご同慶の至りでございます。

ところで、アミティホールが音楽の聖地と云われる所以は、その他芸術に関連する行事でも数多く使われているところからであります。

例えば、文化活動発表会を当ホールで開催する市内中学校は10数校。これは、キャパシティーの関係でやむを得ず、1800席以上あればそのほとんどがアミティ開催を望んでいるとの事。その理由としては、先ずクラスが一丸となって練習を行い、普段とは違う環境、音楽的な効果、アミティのその独特な雰囲気、体感、臨場感が他では味わえない、集団としてより輝きを増す事が出来、学校としての重大イベントである文化活動を本格的ホールで開催する事の重要性を物語っているのであります。

また市民音楽祭「みやっこコンサート」ですが回を重ねる事44回。子供から大人まで幅広い年齢層で構成され、歌あり楽器あり、更には歴史に作られた音色で邦楽の発展に寄与される西宮三曲協会のご協力「音楽と出会うまち西宮」を存分に演出して頂く。また市民コーラス大会も59回の歴史を刻むなど、全ては西宮市のこんにちまでの文化芸術の伝統がそうさせるものであって、他市では類をみないというのであります。

この様に、60年の思いを乗せたアミティホールの建て替え更新に当たっては、ご答弁にもございました「西宮ならではの」、文教住宅都市として、50万都市として、後世に誇れる新ホールの誕生を心よりお願い申し上げる次第でございます。

扱て、以下についてお応え頂きたいと存じます。

最も重要なのは、ホールの規模であります。

現在のアミティホールは1階が868席、2階が312席の計1180席ですが、「音楽と出会うまち西宮」を掲げる今、昨今次々に更新されている他都市の近代的なホールを見れば、本市の規模からすると少なくとも1500席は



必要です。

市内のイベント状況で見ても答えは明白です。

例えば学校行事で使用する場合、1階席を生徒用、2階席を保護者用とするケースが多く、この場合700人規模の学校では保護者は入れ替え制をとらなければなりません。また出演者数や演目によっては、プラットフォーム上に長蛇の列が出来る為入場制限をかけており、時には入場を待つ保護者と接触するなど危険が生じるのです。

また市内中学校合同音楽会に於いても、全体の部員数が1400人を超え、保護者の入場も困難な為、午前午後の入れ替え制をとらざるを得ないのです。この音楽会は、全ての学校が一堂に会する事が重要な要素であるのですが、現状では仕方ありません。

もう一つ、西阪神中学校A部門のコンクールに於いては、今年度出演団体数は27、出演者総数1400人、来場者数は何と4000人を超えたという事です。やはり午前午後の入れ替え制をとり対処致しましたが、この大会では閉会式で結果発表をする為、近隣校は一時帰校したり、遠方からの学校については会場から出て、当ホールの近隣での待機が余儀なくされたとの事です。

ところでお隣尼崎市の昭和57年建築のアルカニックホールのメインホールは1820席、中ホール804席・小ホール250席の規模であります。他にはリハーサル室や控室、練習室2室。大小ある会議室は計4室、催し会場として利用出来る多目的室4室、173坪ある美術ホールも設置され、カフェレストランが一品ございます。

その点を考えますと、本市も800席並びに400席規模の中ホールや小ホールの併設も必須事項となるでしょう。

いずれに致しましても、今後50年、将又100年使われるであろう本市の中核施設の整備であります。後世に誇れる施設整備ともなれば、中途半端なものではなくそれ相当の規模は必要です。お考えをお聞かせ下さい。

扱て、今回は当ホールが現在抱えている問題点を指摘させて頂きました。本市の中核施設であるが故の機能の脆弱性についてであります。

バリアフリー化についてやエレベーター・エスカレーターが無い事。トイレの劣悪さ、楽屋の劣悪さなどですが、この様な基本的な問題については、我々が指摘する必要もなく、当然ながら最も新しい構想のもと設備されるものですので、その点は何卒宜しくお願い致します。

ところで、現在関係諸団体からのヒアリングを行って頂いているところですが、ホールの規模は勿論の事、舞台関係やリハーサル室、会議室、ホールへの搬入口や物置スペースなど、専門家ならではのご意見・ご要望が多く寄せられている事と存じますが、主な項目並びにそれに対するお考えをお聞かせ下さい。

最後に県立芸術文化センター(以下 芸文)に関連してお聞きします。

「本市には、芸文があるから新アミティは小規模で良いのでは、という市の声があるようだがどうなのか。」という質問を私は幾度となく文化団体の方から頂きます。その度私は否定をしているのですが実際はどうなのでしょうか。

そもそも県立と市立とは異なるものであり、もしこの種の疑問が本当ならば錯覚があるように思われます。

芸文の催し事はほぼ1年を通しての主催事業と、広く県民に還元されるもので概ね日程は埋まっている状況です。芸文が本市に存在するとはいえ、本市の主催として日程を取ろうとしても困難をきたします。一般の団体ならより困難な事は必定であります。

従って、芸文が本市にあるからといって、市民がアミティを今利用できているのと同様に芸文の舞台を踏む事は至難の業と言えるでしょう。

先程の様な疑問に誰一人として感わされる事の無き様、施策の推進に努めて頂きたいと存じますが、お考えをお聞かせ下さい。

## アミティホール建替え 議会答弁

### ① 中途半端でない規模の施設が必要では

アミティホールは、開館以来、各種学校行事や吹奏楽連盟、合唱連盟などが行う大規模な演奏会のほか、西宮市芸術祭、西宮市民音楽祭、講演会など、昨年度は、約16万人が利用されており、芸術鑑賞の場としてだけでなく、市民文化の発表の場としても利用されており、本市の文化行政の中核をなす施設である。

アミティホールの再整備にあたっては、これらを踏まえ、どのような機能が必要かを十分に検討し、特にホールの規模、リハーサル室、控え室の機能の充実は勿論、施設そのものが街の賑わいづくりに貢献できるような新しい施設となるように検討する。

### ② 各種団体へのヒアリング調査の内容について

アミティホールを含む市内の市民ホールの在り方について、専門的な意見を反映させるために、現在、専門家、芸術文化団体などからヒアリング調査を行っている。

これまで定期的に利用し、集客力のある一般の音楽関係団体や学校関係から施設の利用状況、現行アミティホールの課題、再整備後のホールに対するご意見をお聞きし、西宮の顔になるようなシンボリックなものにしてほしいなど、新しいホールに対する期待を表明されたものや、座席数や練習室の充実など、施設規模に関すること、利用上のルールなど運用面に関することなどに、多くの団体からご意見をいただいた。

今後は、市民対象のワークショップを開催するなど、様々なご意見をいただき、計画に反映させていく。

### ③ 市は兵庫県立芸術文化センターがあるので、新ホールは小規模でよいと考えているのか

芸文センターは2005年に開館し、世界の一流の芸術に触れ楽しむことのできる場として国内外の様々なアーティストによるコンサート、オペラ、バレエ、演劇など、年間600公演を実施し、県内外から約50万人が来館される日本屈指の劇場である。

一方、アミティホールは、市民が自ら文化芸術を体験し、発表、交流する場として市民に親しまれており、市民が気軽に文化芸術に触れ楽しむことができる市民利用のための施設として位置付けている。

このように、両者の役割は明確に異なっており、懸念されたような「芸文センターがあるから新ホールは小規模でよい」とは、市は考えていない。他にはない西宮ならではのコンセプトやテーマを盛り込み、後世に誇れるアミティホールとなるよう検討する。